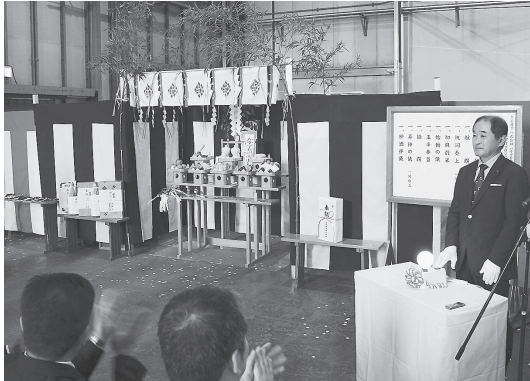




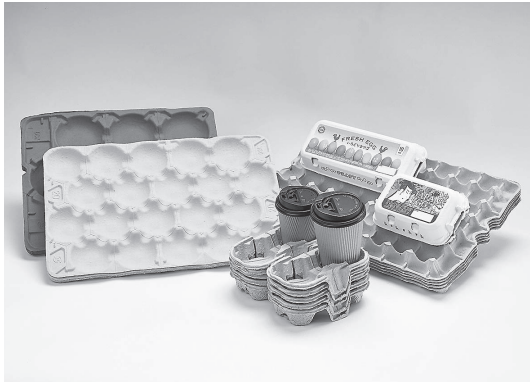
モウルトトレーを手に語る山口博章社長④、下崎清孝執行役員⑤、亀吉幸則執行役員⑥



茨城工場の外観。左側が事務所で、右側が製造工場



「始動の儀」での山口社長⑦



各種モウルトトレーを製造



トマトトレーと段ボールのセット品

山口博章社長に聞く

——今回の大型投資 境対応の流れで「プラスの狙いを教えてくださ

山口博章社長 当社の 備は生産能力を強化して

山口博章社長 当社の 備は生産能力を強化して

最新の量産システム導入 パルプモウルト増産へ

調整を行なう原質調整機は設備を止めずに生産で

調整を行なう原質調整機は設備を止めずに生産で

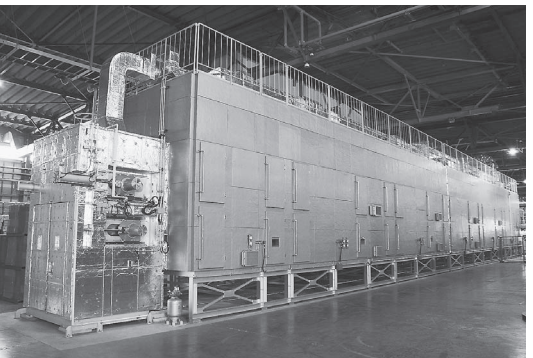
大石産業(株)は鶏卵用モウルトバック「パルビー」などを製造する茨城工場(茨城県北茨城市)に23億円を投じ、生産ラインを増強した。主原料となる古紙を溶かすパルパー(離解機)、調整機、成形機、乾燥炉などを導入。同工場としては過去最大規模の投資となる。6月2日の神事と始動式を経て、新たなラインも本格稼働中だ。山口博章社長に増産の狙いと、鶏卵用モウルトバック市場の展望を聞いた。

大石産業 茨城工場に23億円投資

来のラインに、もう1ライン追加したイメージです。投資額は約2億円で、茨城工場では過去最大規模になります。

クドリンクキャリア(大)ことを重視する消費者が手ファストフード向け、多いですね。その一方で、平飼卵やブランド卵、生協の宅配品などではモウルトバックへの評価が非常に高い。通気性やクッション性があり、高級感も演出できますから、付加価値卵との相性は非常に良いと考えています。

山口社長 トレー交換に業務用の卵トレーは、較手場とハ口工場が生産しています。卵パック事業をがモウルトです。向こうの係者から「なぜ日本では広まらないのか」と使わず、古紙と水だけで吸湿性があるので、鶏卵



大型乾燥システムを新設



衛生的に梱包され、出荷を待つパルビー

想します。

——最後に利用者へのメッセージと、経営目標をお願いします。

山口社長 当社は昨年、創業100周年を迎えることができました。ここ茨城工場はちょうど30周年の節目であり、今回の投資が第2の創業とも言えるでしょう。これだけの歴史を重ねられたのは先人らの努力に加え、現在の役員、地域住民の皆様、そして何よりお客様のおかげ。茨城での設備増設は、次の100年に向けた決意表明と捉えてください。

山口社長 環境意識の高まりで、モウルトへの問い合わせは確実に増えています。急激ではありますが、モウルト市場が期待できるかと思いま

——ありがとうございます。ありがとうございます。